



可愛かった年中さんの劇

3日の年中発表会、10日の年長発表会に、ご両親はもとよりお祖父ちゃん、お祖母ちゃん、中には、家族総出で参観していただきまして誠にありがとうございました。ごっこ遊びからスタートし、劇遊びを経て、物語の登場人物になりきって演じる劇を作り上げるようになった子どもの姿をご覧になって、いかがでしたか？ 子どもたちは、繰り返し練習してきた成果を十分に発揮し、多くの方に感動を与えることができました。初めは、大きな声や動作が不十分だった子どもたちが、当日は、緊張しながらも登場人物の役になりきって自分の表現ができ、多くの方に感動を与えることができました。発表会は、教師にとりましても指導力を問われる場ですから、これまで以上に指導に熱が入ります。担任は、子ども一人ひとりの持ち味が発揮できるように、子どもと相談して役を決め、先輩教師の指導を受けながらシナリオを何度も手直ししてきました。また、子どもたちの演技を支えるために、非常勤の職員を含め全職員で、舞台の背景画や大道具、小道具そして衣装作りに励み、連日8時、9時に帰宅するというのが日課となっていました。

すもも組の「いえでだブヒブヒ」では、3匹の子ブタがお母さんに叱られてばかり。面白くないので家出をして、あちこちの家を訪ねますが、結局、お母さんが恋しくなって家に帰るといってお話を演じながら、子どもたちは、やはり、お父さんやお母さん、自分達の家が一番いいのだと感じてくれたことと思います。年中の子どもたちは、家族の方が、自分達を立派な社会人に成長させたいとの願いから、叱っているのだと気付いてくれることでしょう。

びわ組の「サラダでげんき」も具合が悪くなったお母さんのために、みんなが持ち寄った材料で「トントントン♪」のリズムに合わせて作ったサラダづくりの劇は、日頃のクラスみんなが力を合わせている姿をそのまま表現したようでした。クラスのみんなが、担任と一緒に、いつも楽しく、元気に遊んでいる姿が想像できました。そして、野菜嫌いだった子どももこれで野菜嫌いがなくなることでしょう。

成長を見せた年長さんの劇

年長さんの表現は、年中さんの可愛らしい表現とは違って、年の差1つとは思えない程の成長を感じさせる表現であり内容でした。どのクラスも、子どもたちが一番好きな読み物を劇にしたのですから、一人ひとりが、役に入り込み、自信を持って演じることができました。

また、それぞれの学級の特徴と言いますか、持ち味が出た劇であったように思いました。

さくら組の「どろぼうがっこう」は、泥棒学校の先生と生徒との軽妙なやり取りや定番となった「抜き足、差し足、忍び足！」をリズムカルに大きな声で、大きな足音を立てて泥棒に入る所が子どもらしくて楽しい演技でした。一人の子どもが下を向いて「僕、笑われたけん、恥ずかしなあ」と言ったので「僕の演技がそれだけよかったから、みんなが笑ったんだよ」と言うと、安心した顔をしていました。2年前に同じ泥棒学校の先生役をしていた卒園児も楽しんで演技を見ていました。

うめ組の「王さまと九人のきょうだい」は、腕自慢、力自慢、腹自慢等の一卵性九生児の兄弟が、それぞれの持っている才能を生かして、王様からの難題を次々に解決していくという内容を見事に演じました。小道具もアイデア満載で、子どもたちは、楽しく、上手に使って演じていました。特に、崖の上から突き落とされる場面で、足がキューと伸びる仕掛けに、観ていた保護者の方も、「あっ」と驚きの声を上げておられました。

ゆり組の「じごくのそうべえ」は、落語からの題材を基にしたお話でしたが、子どもたちが関西弁を上手に話して演じていたのには、驚かれたことでしょう。落語だけに話術が要求されるところですが、子どもたち一人ひとりが自分の役をしっかりと把握し、感じたものを素直に表現していたので、観る人を笑いの渦に誘ったようです。舞台背景や大道具にも工夫が凝らされ、場面に相応しい演技を、一人ひとりが楽しく演じていたのがお分かりいただけのことと思います。とても優れた劇の発表会でした。

